

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101935
法人名	社会福祉法人やまなし勤労者福祉会
事業所名	グループホーム わがや
所在地	〒 400-0866 甲府市若松町6-35 電話番号 055-223-8101 055-223-8106

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年12月7日

【情報提供票より】平成19年10月12日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人				
職員数	7人	常勤	7人	非常勤	1人	常勤換算	0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	6 階建ての 0 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1100 円			

(4) 利用者の概要 平成19年9月1日 現在

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲府共立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年11月6日

近くに商店、公園、図書館があり環境と交通の便の良い市街地に設置されている。買い物や散歩で地域の方々と顔馴染みになり、時には地域の方々が気軽に事業所に立ち寄って一緒にお茶を飲んだり地域の行事に誘ってもらったりしている。職員は、家庭的な環境のもとで人権、人間性を尊重し、利用者の有する能力に応じた自立生活を営む事の出来るよう支援する事や地域と共存する事を大切にして、恥をかかせない介護、待つ介護をモットーに個々に無理をさせない介護に取り組んでおり、内外部の研修会にも積極的に参加しサービスの質の向上を目指している。管理者が看護師なので必要に応じて排泄支援やバイタルチェックの支援等得られる

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 確実な申し送りや情報伝達についてはサインで確認しており、緊急時の対応については、いざという時対処できるよう研修を重ねている。気軽に入れる玄関周りの配慮や案内板の設置、共用空間における居場所の確保など前向きに取り組んでいる
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、職員会議でも話し合いパート職員を含めた全職員で取り組み、提供するサービスに活かす前向きな姿勢がある
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) メンバーの中には、全利用者の家族も入っており、利用者の家族からは、地域の方々も参加しているため、本音を出しにくいとの意見等があり、運営推進会議を活かした取り組みを行なうには至っていない。会議の意義や役割を十分理解して積極的に参加してもらえるよう事業所からの投げかけや提案の検討、市町村担当者がメンバーとして参加して、今後サービス向上にむけた運用がなされることを期待したい
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) わがや便りを発行して利用者の暮らしぶりを知らせているが、定期的な報告時と家族の訪問時や本人、家族の状態に合わせて個別の報告がなされている。利用者の家族は毎日訪問～月一回と個々に違うが、訪問時に意見や不満が言い易い雰囲気づくりに配慮し、家族から聞いた「もっと声かけて欲しい」を、家族からの意見・要望ノートに記録し全職員で共有している。また、家族会の発足を検討中なので期待したい
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所が街中にあるので利用者と職員と一緒に買い物や外食を楽しんだり、地域の夏祭りや防災訓練にも積極的に参加、利用者が分別作業した有価物の回収に地元の人々が来て交流し、地域とのつながりを大切にしている。職員が気づかないうちに外出され、その事に職員が気づいたのと同時に地域の方から「わがやさんの方ではないですか？」との連絡があり無事帰宅でき、地域との連携が図られている

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム わがや

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもとで人権、人間性を尊重し、利用者の有する能力に応じた自立生活を営むことのできるよう支援する事や地域との関係を密にし、地域と共存する理念を平成16年4月の開所時からつくりあげており社会的なつながりを大切にしている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、恥をかかせない介護、待つ介護をモットーに個人個人に無理をさせない介護に取り組んでおり、申し送り時やミーティング時に理念の共有を再確認している		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が街中にあるので利用者と職員は一緒に買い物や外食を楽しんだり、地域の夏祭りに参加して講談を聴き、地域の防災訓練にも積極的に参加、また利用者が分別作業した有価物の回収に地元の人々が来て交流し、地域とのつながりを大切にしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価時に改善点の1つであった確実な申し送り、情報伝達についてはサイン等で確認しており、その他の改善点についても、自己及び外部評価を実施する意義を理解し職員会議でも話し合いパート職員を含めた全職員で自己評価し取り組んでいる		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	メンバーは地域包括支援センターの職員、民生委員、自治会長、共立友の会代表、全利用者の家族で構成され、家族同士の同じ思いを共有し個々の家族のつながりが少しずつ強くなってきているが、運営推進会議を活かした取り組みを行うには至っていない	○	運営推進会議の意義や役割を十分理解して積極的に参加してもらえるよう事業所からの投げかけや提案の検討が望まれる。市町村担当者がメンバーとして参加して今後サービス向上にむけた運用がなされることを期待したい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時、実情を伝えて助言を得るようにしているが、最近はその必要が生じていない	○	事業所の実情や介護サービスの取り組みについて市町村担当者に対して折に触れ伝えることが行われていないので今後は関係づくりを積極的に行い、運営の実態を共有し協働関係を築いていくことが望まれる
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	わがや便りを発行して利用者の暮らしぶりを知らせているが、健康状態や職員の移動については、定期的な報告時と家族の訪問時や本人や家族の状況に合わせて個別の報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族は毎日訪問～月一回と個々に違うが、訪問時に意見や不満が言いやすい雰囲気づくりに配慮し、家族から聞いた「もっと声かけして欲しい」を、家族からの意見・要望ノートに記録し全職員で共有している。また、家族会の発足を検討中なので期待したい		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	健康上の理由による退職や系列の新設グループホームや併設施設への異動は重ならないように努力し、異動の場合の引継ぎは2週間から1ヶ月として、夜勤も慣れた職員と組んで2回行い、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で内外部の研修情報を伝え、時間保障研修や自主参加研修など研修参加の機会も多く、研修内容については職員会議で全職員に伝えている		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近くのグループホームで研修を受けており、6月に北海道で行われた全国グループホーム協会でも事例発表を行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり利用するのではなく、自宅を訪問して利用前の様子を知り、本人が安心して利用できる為にも、事業所へ本人と家族に2回～3回来てもらい話しをしたりお茶やおやつと一緒に食べて他の利用者や職員や場の雰囲気に徐々に馴染める工夫をしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ころ柿の美味しい作り方」を利用者に教えてもらったり、急に状態が低下し落ち込んでいる利用者には、その不安感に共感し個別対応を心がけているが、職員の肩こりに気づいた利用者からマッサージを受け労って貰う等、共に支え合う関係が築かれている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴の把握と日々のかかわりの中で声をかけ、行動や表情から一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、全職員が個々にセンター法式でアセスメントを行い情報収集している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	リビングの賑やかな雰囲気に気づいた利用者から「私ばかりのけ者にしている」という発言があり、その言葉を記録し、居室で休んでいる様でも声かけの必要性を全職員で取り組んでいるが、全家族が介護計画を一緒に作成している意識が持てる働きかけも望まれる		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング実施の中で見直し、サービス変化があれば随時検討、見直ししている。以前はトイレ、入浴介助が不必要だった利用者の状態低下と病気発見があり、これを受けて家族と相談し、現状に即した新たな計画を作成し全職員でモニタリングも細かく行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が看護師であり、必要に応じて排泄支援やバイタルチェックの支援、職員による通院介助など多機能性を活かした柔軟な支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、事業所利用前のかかりつけ医との関係を維持しながら、必要に応じて事業所協力医療機関の往診を受けられる支援をしている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、介護計画の説明時において、終末期のあり方について、本人や家族の希望の受け入れを行っている。過去の事例で末期の癌で1度は退去したが本人が落ち着かず1日で戻った事例があるが、他の利用者の心の動きに配慮しながらチームとして勉強と話し合いをして全員で方針を共有し支援を行なった		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所は、人権・人間性を尊重し恥をかかせない介護、待つ介護を理念としており、昼食の準備に気の進まない利用者に対しても誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はせず、その時出来るきっかけ作りを待つ言葉かけがされていた		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にそって庭の掃除やリビングでの休息、広告のチラシに興味深いものがあれば買い物等、一人ひとりのペースを大切にして日々その人らしい暮らしの支援を柔軟に対応している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が和気あいあいとした雰囲気の中で一緒に準備し、会話を楽しみながらの食事風景には笑顔があり食事を楽しむ事の出来る支援がされている		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制としており、必要に応じて介助の支援を行なっている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や力を活かし調理や洗濯物干し、宅配の生協食品のチェックと仕分け等それぞれの得意な事を行い張り合いのある日々を過ごしている。また、外出企画や買い物など気晴らしの支援をしている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の商店や神社へ出かけたり、本人の希望による散歩など日常的な外出支援がされている		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常鍵をかけていない。 職員が気づかないうちに外出され、その事に職員が気づいたのと同時に地域の方から「わがやさんの方ではないですか？」との連絡があり無事帰宅できた		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は消火器の使い方を把握しており、定期避難訓練や緊急連絡網訓練では職員が早急に駆けつける訓練や地域の防災訓練にも参加し、地域の人々から協力が得られるよう日頃から関係づくりに心がけている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を配慮し食事摂取量や水分摂取量が一日を通じて確保できるように支援している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者にとって不快な音や光がないように配慮されているものの、リビングが狭く利用者の状態に合わせたテーブルや椅子の工夫がなされていない	○	居室以外で長い時間を過ごす事の多いリビングなのでスペースの有効活用を工夫する事により居心地がよくなることが期待される
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感のある各居室には、馴染みの物品が持ち込まれ居心地よく過ごせる工夫をしている		